

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1年後期	1	3	必修（教職必修）
担当教員			
田井 幹夫・林 英昭・八木 佐千子・彌田 徹			
添付ファイル			
講義概要	建築設計・基礎では建築設計における基本的考え方、表記方法などを学ぶ。 1. 名作住宅のプレゼンテーション 国内外の歴史的な名作住宅を調査分析し、図面と模型によってその特徴を伝えるべく工夫してプレゼンテーションする。 2. 火もしくは水のある125m ³ 既成概念を取り払い、事象の根源的な発生と目的のための単位空間の設計を行う。 3. ○○のすむ家 地元袋井の旧東海道沿いの敷地に、自身で住まい手を設定し、その生活像に相応しい住宅を設計する。 この科目は、建築設計分野の実務経験のある教員が担当する科目である。		
授業計画	1 「名作住宅のプレゼンテーション1」 近代以降の国内外の著名建築家による代表的な住宅作品について、その空間を理解し、図面と模型を用いて、設計意図を他者に伝えるためのプレゼンテーション技法を体得する（なお、近代以降とは産業革命以降を指す）。 講師自己紹介。キャンパス見学。第1課題の課題説明。作品リスト配布。20世紀の住宅について座談会による説明。模型の作り方など解説。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 2 「名作住宅のプレゼンテーション2」 作業の途中経過報告。教員への相談、アドバイス。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 3 「名作住宅のプレゼンテーション3」 プレゼンテーションパネルへのレイアウト案（最低2案を持参する）チェック。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 4 「名作住宅のプレゼンテーション4」「火」または「水」のある125m ³ #1 プレゼンテーション（講評会）、第2課題の課題説明。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 5 「火」または「水」のある125m ³ #2 エスキスチェック。コンセプト、周辺環境、空間のプロポーショナル、「火」「水」についての考え方。大まかなデザイン。スケッチ、スタディ模型。 (AL1, AL2, AL3) 6 「火」または「水」のある125m ³ #3 エスキスチェック。デザイン詳細。タイトル。レイアウトスタディ。 模型製作状況確認。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 7 「火」または「水」のある125m ³ #4」「○○のすむ家 #1」 プレゼンテーション（講評会）、第3課題の課題説明。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 8 「○○のすむ家 #2」 住み手の設定。住み手の紹介、住まい方のコンセプト発表（A2パネル1枚）。敷地決定の上、調査発表。エスキスチェック補足。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 9 「○○のすむ家 #3」 エスキスチェック。敷地模型完成。配置計画。平面計画。 断面計画。スタディ模型。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 10 「○○のすむ家 #4」 エスキスチェック。配置計画。平面計画。 断面計画。立面計画。スタディ模型。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 11 「○○のすむ家 #5」 中間発表。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 12 「○○のすむ家 #6」 エスキスチェック。配置計画。平面計画。 断面計画。立面計画。スタディ模型。 (AL1, AL2, AL3, AL6) 13 「○○のすむ家 #7」 プレゼンテーションレイアウト、表現。図面の描き方、動線等機能面の確認。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 14 「○○のすむ家 #8」 プレゼンテーションレイアウト、表現。図面の描き方、動線等機能面の確認。 (AL1, AL2, AL3, AL4) 15 「○○のすむ家 #9」 最終講評会。 (AL1, AL2, AL3, AL6)		
授業形態	・全体を4班に分け、1教員が1班を担当して、個別にチェックを行う。グループ別または個人別にエスキスを行う。エスキスはスケッチ、図面、模型等を準備した上で臨むこと。講評会では、学生は自己の作品のプレゼンテーションを行い、質疑に応答する。 ・アクティブラーニング：①:15回, ②:15回, ③:15回, ④:12回, ⑤:0回, ⑥:2回		

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・空間を創造する前提として以下の項目について習得する。 1) 作図の技能（空間を3次元から2次元に還元する）。 2) 建築の役割（program solving）への理解。 3) 身体的空間の意味。 4) 建築への観察力。 5) 実測の方法。 6) 自身がイメージしたコンセプトやストーリーの空間への結実。
評価方法・フィードバック	プレゼンテーションパネル（図面、パース）、模型、プレゼンテーションおよび質疑に対する応答。各課題とも、提出期限は厳守とする。原則として、課題等のフィードバックは次回以降の授業内で実施する。
評価基準	講評会における提出図面、模型、プレゼンテーションの総合評価とする。課題のうち一つでも未提出がある場合は不可となるので注意のこと。 秀（S, 100～90）、優（A, 89～80）、良（B, 79～70）、可（C, 69～60）、不可（D, 59以下）
教科書・参考書	藤木庸介『改訂版 名作住宅で学ぶ建築製図』学芸出版社、日本建築学会編『コンパクト設計資料集成』 参考書：『JIA東海住宅建築賞』日本建築家協会東海支部、そのほか適宜提示
履修条件	「図学」を履修しておくこと。
履修上の注意	設計演習課題の性格上、授業時間外の作業が必須となる。そのため、各課題の作業にあたって、各自で授業時間以外の作業スケジュールを組み、提出期限内に完成させること。エスキースにおいては、必ずスケッチ、模型等、スタディの過程を示す素材を準備すること。素材がない場合はエスキースを行えないので注意のこと。
準備学習と課題の内容	<ul style="list-style-type: none"> 1. 授業内容を参照して予習・復習を行い、図書館にて国内外の雑誌・書籍に積極的に触れ、時代毎・建築家毎のコンセプト、表現技法、プレゼンテーション、図面、写真から建築を読み込むこと（合計3.0h）。 2. 製図用具の準備、作業時の身の回りの整理整頓を行うこと。 3. 日常から優れた建築物を訪れ、空間構成を体感すると共に、スケッチを行うこと。 4. 各地で開催される都市・建築系の講演会、展覧会に積極的に訪れること。
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解：20%、思考・判断：20%、関心・意欲：15%、態度：15%、技能・表現：30%（コミュニケーション含む）
DP1 知識・理解	
DP2 思考判断	
DP3 関心意欲	
DP4 態度	
DP5 技能・表現	